

---

平成 29 年

# 12 月の普及活動状況

---

## ダイジェスト版

～県下 10 農林事務所農業普及課と農業経営課(農業革新支援センター)の取組～



岐阜県農政部農業経営課

## 新たなブランドづくり

### 下呂農林■エゴマ あぶらえ新商品開発検討会が開催

12月18日、薬品会社、行政、研究機関等による「あぶらえ新商品開発検討会」が開催され、農業普及課も出席した。

あぶらえ（エゴマ）は、疲労回復等に有効な成分を含んでおり、管内では企業や大学と連携し、運動選手を対象に機能性を活かした新商品の開発に取り組んでいる。

検討会では、試作品の運動選手へのアンケート結果の分析や、新商品の開発に向けたさらなる改良点について意見交換が行われるなど、熱心な議論となった。

農業普及課は、引き続き「新たなブランド創出支援事業」を活用し、新商品の販売化に向けてあぶらえ（エゴマ）の生産拡大を支援していく。



【新商品の開発に向け  
議論を交わす】

## 多様な担い手づくり

### 西濃農林■青年農業士 活動を形に残す～酒造りの取り組み、視察研修の開催～

西濃青年農業士会は12月7日、愛知県の酒造会社を訪問し、視察研修を行った。今年度の活動の一環で、青年農業士自らが栽培したハツシモ90kgを原料として、オリジナル酒を造るというもの。酒造会社では、酒ができるまでの説明を聞き、飲み口や香り、瓶やラベルのデザインの打ち合わせをして「お酒のオーダーメイド」がスタートした。オリジナル酒は3月に完成予定で、出来上がりが待ち遠しい。

農業普及課は、視察研修の実施や酒造会社との連絡調整などの支援を行った。



【出来上がりが楽しみ！  
酒造りの打ち合わせ】

### 可茂農林■指導農業士 井戸「畑」会議

12月5日、加茂農林高等学校にて、第3回井戸「畑」会議が開催された。農業に関心のある学生23名と指導農業士7名がワールドカフェ方式で語り合った。

学生からは、農業の現場について多くの質問があり、指導農業士が丁寧に答えていた。また、農業に対する夢や農業のイメージアップについても意見交換が行われた。

農業普及課では、今後も将来の担い手候補である高校生の意識喚起および指導農業士活動の支援を積極的に行っていく。



【語り合う  
指導農業士と高校生】

### 東濃農林■新規就農希望者 東濃地域就農支援会議で新規就農を支援

今年度、瑞浪市出身の就農希望者が県就農支援センターでトマトの研修を行っており、地元での就農に向けて準備を進めている。東濃地域では、農林事務所が事務局となり、東濃地域就農支援会議を組織し、関係機関で円滑な就農に向けた支援を行っている。

就農に向けては、トマト栽培に適した農地探しに苦慮しており、農業普及課でも瑞浪市や地元の営農組織等の協力を得て、農地の情報を研修生に提供するなど、支援を行っている。

こうした状況の中で、12月11日には関係機関で、19日には本人も交えて就農支援会議を開催し、1月中旬を目途に農地探しに重点的に取り組むこ



【就農支援会議の様子】

と、補助事業を利用したハウスの導入、販路の確保等を支援すること確認した。  
農業普及課では、今後も関係機関と連携し、就農に向けた支援を継続する。

## 売れるブランドづくり

### 革新支援センター■飛騨牛 岐阜地域和牛繁殖勉強会

12月13日に笠松町の和牛繁殖牛舎及び岐阜地域畜産振興会肉牛部会が主催する岐阜地域和牛繁殖勉強会が開催され、岐阜地域の和牛繁殖農家や関係者など18名が参加した。勉強会では、笠松町の和牛繁殖農家の牛舎を視察し、飼養管理や血統などについて農家からの説明を熱心に聞き入っていた。その後、場所を移動して昼食を兼ねた意見交換会を行い、農業経営課地域支援係の農業革新支援専門員が「子牛育成」について解説した後、農家間で意見交換を行った。農家からは、「他の牛舎を見る機会がないので、参考になった」等の意見が寄せられた。



【和牛繁殖勉強会】

### 岐阜農林■GAP GAP推進担当者会議開催

12月15日、OKBふれあい会館において、農業普及課主催により、JA等関係機関の担当者を参集し、GAP推進会議を開催した。

会議では、県GAP施行を踏まえ、管内における推進方針について意見交換し、考え方を共有するとともに、共販組織が取り組む場合の課題明確化のため、団体管理基準及び施設管理基準について、約80の項目ごとに検討した。その結果、多くの項目では現在の取り組みで充足されるものの、現状確認を要する項目や、更に検討すべき項目も2割ほどあることが分かった。

今後は、各関係機関において検討・整理のうえ、年明けに課題解決に向け議論を更に深めていくことを確認した。



【意見交換の様子】

### 揖斐農林■水稻 坂内龍神米 今年の生産を振り返る～反省会～

12月22日、積雪で一面雪景色となった揖斐川町坂内地区において、坂内龍神米の反省会および研修会が行われた。

今年は天候不順による品質低下を心配し、やや早刈傾向となったが、直売所やふるさと納税のお礼品として、今年も好評を得ている。また今年初の取り組みとして、生産者の負担軽減と品質向上を目的に、一部地区をモデル地区として無人ヘリ防除を実施した。生産者から来年も無人ヘリ防除を希望する声があがり、引き続き取り組む予定である。

農業普及課からは、実証ほの試験結果を報告するとともに、良食味米生産のための適期収穫について説明した。来年度の実証ほ設置や収穫時期の情報提供について生産者から要望があり、現地研修会や巡回指導等、JAと協力し来年も継続して支援していく。



【反省会の様子】

### 中濃農林■さといも 里芋機械化研修会を開催

12月5日、中濃農林事務所、中濃里芋生産組合、JAめぐみの主催による里芋機械化研修会が開催され、関係者を含め県内外から96名の参加があった。

農業普及課より、全国農業システム化研究会事業を活用した、畝立同時施肥等による省力化の実証結果について説明した。その後、屋外にて、機械メーカーよる毛羽取り機と選別機を活用した調整作業の省力化に向



【里芋機械化研修会】

けた実演が行われた。

参加者からは、多くの質問・意見が出され、活気ある研修会となった。

今後も、機械化体験を推進し、省力化による栽培面積の拡大に取り組んでいく。

### 郡上農林 ■ 普及活動成果発表 郡上市農業振興大会にて米のブランド化に向けた普及活動を発表

12月2日、郡上市美並町の日本まん真ん中センターにおいて、2017郡上市農業振興大会が開催され、郡上市内の農業者や関係機関職員等337名が参集した。農業普及課は、農業振興事例発表において「郡上おいしい米コンテストを通じたブランド化」と題して、地場産米の食味向上やPR活動に関する普及活動成果について報告した。

平成27年度から開催している「郡上おいしい米コンテスト」を通じて地場産米の美味しさが再確認される共に、更なる食味向上を目指して稲作農家同士が切磋琢磨するようになったこと、地域を越えた稲作農家の繋がりとして、昨年より「郡上産米ブランド化研究会」が発足して活動を始めた事などを発表した。参加者からは、郡上市全体で米の食味向上を図っていききたい、一層の高値販売を望むなどの声が聞かれた。

今後、農業普及課では来年度高山市にて開催される米・食味分析鑑定コンクール国際大会で郡上市内の米が数多く入賞する様に、地場産米の更なる食味向上を図っていく。



【普及活動の発表】

### 恵那農林 ■ 水稻 ひがしみの地域おいしいお米コンテスト開催

「東美濃産コシヒカリ極良食味米産地確立プロジェクト」（構成員：生産者、JA、管内2市、中山間農業研究所中津川支所、農林事務所）では、12月19日にJAひがしみの本店において開催された「平成29年度ひがしみの地域おいしいお米コンテスト」において、地元産コシヒカリ等の極良食味産地化に向けた支援を行った。

当日は、地域の生産者、関係機関等約70名が出席し、これまでに実施された1次、2次審査を通じて選考された5点について、恵那農林事務所長他9名の審査員による実食審査により、最優秀賞、中津川市長賞、恵那市長賞各1点、優秀賞2点が決定された。

審査結果発表前には、農業普及課から「米の食味と取り巻く情勢について」、中山間農業研究所中津川支所から「良食味米栽培方法の研究と成果」と題して講演を行い、表彰式後には農業普及課長がコンテスト全体をとらえた審査講評を行った。

同プロジェクトでは、地元産コシヒカリの極良食味米産地確立に向け、今後も農業普及課が主導する中、関係機関が一丸となった取り組みを継続する。



【講演の様子】

### 飛騨農林 ■ りんご 第20回りんご『ふじ』品評会を開催

12月7日にJAひだ果実出荷組合協議会主催による『第20回りんご「ふじ」品評会』が開催された。本品評会は、生産者の技術向上・産地PRを目的に毎年開催され、飛騨農林事務所も審査員として開催を支援している。

今年は管内の4果樹生産組合から45点が出品され、いずれも甲乙つけがたい素晴らしいりんごばかりであった。また、今年度は若い世代の出品したりんごが多く入賞し、20回という節目を迎えるにあたり、新たな風が飛騨の果樹生産の現場に吹いていることが伺えた。

今後、農業普及課では、審査結果を基に生産者の更なる栽培技術向上・産地PRにつながるよう支援していく。



【最終審査の様子】